

番号	ページ	意見	修正概要
1	全体	計画書に記載されている「年次」の表記方法について 西暦と和暦が混在している。	グラフは西暦表示として統一し、本文中は和暦（西暦）で表示するよう統一した。
2	全体	都市計画道路の表記について 都市計画道路名よりも「森林公園通り」のような市民にとって馴染みのある名称や通称名で表記したほうが良い。	「道路愛称」と「都市計画道路名」の両方を用いて、以下のとおり表示する。 (例：48ページ将来都市構造図) (都) 名古屋瀬戸線 ⇒ 瀬戸街道((都)名古屋瀬戸線) (都) 瀬戸線 (国道363号) ⇒ 国道363号((都)瀬戸線) (都) 印場線 ⇒ (都) 印場線 ※愛称無のため (都) 稲葉線 ⇒ 中央通り((都)稻葉線) (都) 玉野川森林公園線 ⇒ 森林公園通り((都)玉野川森林公園線)
3	13	「地震災害リスクが低いまち」の図について 愛知県が公表している震度分布図を掲載しているが、尾張旭市独自の被害想定があると聞いているが掲載しないのか。	防災部局に確認の結果「市独自の被害想定では、他市との比較が困難であり、県との見解に相違が生じるため、県の被害想定を活用する。」との回答であったため、都市計画マスターplanについても、愛知県が公表している震度分布図を掲載はできない。
4	16	「消防や救援のための活動空間の確保」の「狭い道路」について 狭い道路は、安全確保を阻害している印象がある一方で、まちに静けさや落ち着きを与えるといった、路地の良さとして地域の魅力にもなっている。そうした魅力を残しつつ救助活動が可能となるよう調整が必要であると思う。	64ページ第4章 まちづくりの方針－目標I 住環境－方針2 安全安心な住環境・住宅を整える－主な取組（2）住環境の防災性能の向上－③ 狹い道路の拡幅整備」の内容を以下のとおり修正した。 「狭い道路が多くある地域については、路地のある魅力ある街並みの保全、緊急車両の進入や災害時の避難路の確保という双方の観点を踏まえ、拡幅整備を検討します。」
5	39～40	まちづくりの理念を示す「パース」について イメージパースには、公園愛護会の活動の様子を描けると良い。	イメージパースは、様々な人の活動が感じられるよう工夫した。 また、86ページに、公園愛護会活動などの多様な市民活動をコラムとして掲載した。
6	60	主な取組の（1）良質な住宅地の確保と生活利便性の維持について 尾張旭市は立地適正化計画を策定しており、コンパクトなまちを目指している。利便性の高い生活圏の維持として都市機能誘導区域に触れているが、居住誘導区域についての具体的なイメージが湧きにくいところがある。	尾張旭市立地適正化計画に記載されている「本市の都市のコンパクト化についての考え方」を、61ページにコラムとして掲載し、居住誘導の考え方を具体的に示した。
7	64	84ページの方針1の主な取組(1)まちづくりのアイデアや担い手を発掘するについて 「地域防災力の向上という点について防災の担い手、防災のリーダーを育成」という視点があると良い。また、本市は比較的安全だとされているが「家具の転倒防止対策」は必要である。	64ページ「目標I 住環境－方針2 安全安心な住環境・住宅を整える－主な取組（2）住環境の防災性能の向上－①建築物の耐震化、不燃化等」に防災リーダーなどの人材育成の観点を加えて以下のとおり修正した。 「地震発生時に在宅避難ができるよう、家具の転倒防止対策や感震ブレーカーの普及啓発に取り組むとともに、地域全体の防災力を高めるため、防災リーダーなどの人材を育成します。」
8	64	方針3の主な取組(1)の「上下水道施設の整備」というタイトルについて 上下水道施設は老朽化対策が必要であることから「更新」という視点も必要である。	タイトルを「上下水道施設の整備・更新」と修正した。 また、合わせて「①上水道施設の整備・更新」「②下水道施設の整備・更新」に修正した。

番号	ページ	意見	修正概要
9	79	方針1の主な取組(1)の「③矢田川河川緑地の活用」の「自転車道」について 自転車道というよりは、散歩する高齢者や幼児にとって危険が伴わないよう、自転車との 共存する整備をするという考え方方が望ましい。	意見を反映し、以下のとおり修正した。 「矢田川河川緑地については、 <u>歩行者と自転車が共存できる散歩道の拡幅整備を進めるとともに、さらなる利便性の向上をめざし、駐車場の整備を検討します。また、これまで以上に多くの人が訪れる拠点となるよう、オープンスペースの魅力的な活用を検討します。</u> 」
10	82	方針3の主な取組(1)の「②担い手の育成や支援」について これからの時代を考慮して「スマート農業の導入の検討」という視点も必要である。	意見を反映し、以下のとおり修正した。 「農地の集積や集約化、 <u>スマート農業などの新たな技術の活用による担い手の支援を図るとともに、関係機関と連携して新規就農者の参入を促進します。</u> 」に修正した。
11	82	方針3の主な取組(3)の①工業用地の集積について 工場立地などの従来型の雇用の創出だけでなく、新しい時代に対応したIT関連企業や小規模なスタートアップの支援、まちなかの空き店舗を活用した小規模な仕事場づくりなどの視点が必要である。	意見を反映し、主な取組(2)のタイトルの変更を含めて以下のとおり修正した。 主な取組(2) 鉄道駅や主要な道路沿道の商業的な魅力の向上 ↓ ↓ ↓ 主な取組(2) まちなかの魅力ある働く場の創出 また、その中の「②空き店舗などのストックの活用」を以下のとおり修正した。 「駅周辺や幹線道路沿道の空き店舗（テナント）については、 <u>創業やスタートアップの場として活用を図るとともに、新しい時代に対応した働く場の創出に向け、所有者と利用希望者とのマッチング支援策を検討します。</u> 」
12	82	方針3の主な取組(3)の①工業用地の集積について 市内の既存企業は、施設の老朽化などの課題もあることから、既存企業が維持継続できる環境づくりという視点が必要である。	意見を反映し、主な取組(2)に、新たに「③既存の事業者への支援」を追加した。 「本市の発展をけん引してきた <u>既存の事業者</u> の人材育成や設備投資、業務効率化などの事業継続に必要な取組を支援することで、市外への流出を抑制し、雇用の維持拡大を図ります。」
13	90	2地域区分の設定について 尾張旭市は名鉄瀬戸線の存在によって街が形成され発展してきた経緯もあり「物理的・心理的に分断」という表現は状況を過度に強調している印象を与えかねないと感じる。	意見を反映し、修正した。
14	93他	地域別のまちづくりマップについて 下図には、公園緑地の色や学校などの公共施設名があると、実際に表したい取組内容や区域が分かりにくくなると感じる。	意見を反映し、まちづくりマップの下図を修正した。
15	93他	地域別のまちづくりマップについて 取組の範囲が決まっている箇所は明確に表示したり、取り組み内容に括弧書きで町名など具体的な地名を補記することで分かりやすくなると感じる。	意見を反映し、まちづくりマップを修正した。